

我が家の御講

6月19日、県境を越えた移動をはじめ、基本的な自粛要請が解除されました。政府は三密対策等の感染予防をしつつ、日常生活の再生へと舵を切ったのです。実際、緊急事態宣言等、政府が施策の根拠とした「行動を8割制限しないと42万人が死亡する」との試算は国民の緊張感を高め、国際社会が絶賛する自発的な自粛行動を生みました。しかし、8割減が達成されないままで900余名の死亡に止まる現実に、「数字の開きの説明がつかない」との声も上がり、行き過ぎた自粛に警鐘を鳴らしていた識者が注目されたりもしています。人類が初めて出会う体験に試行錯誤は当然ですが、この数か月の経済的な損失という代償は、あまりに大きなものでした。第二波、第三波が警戒されますので、しっかり検証して欲しいものです。

とりあえず、20日の土曜日には週末を楽しむ人々が各地に溢れ、久々の賑わいが報道されました。私も21日には横浜の御会式をご奉公させていただきましたが、飛行機は減便中ながら座席はほぼ埋まり、横浜の市内もずいぶん人が出ていたようです。首都圏の寺院は概ね2か月以上も参詣自粛をされましたので、必死で無事奉修を祈られたそうで、皆が喜んで御会式を迎える姿が印象的でした。当たり前にある一つひとつのご奉公に、改めて感謝を覚えました。

ところでコロナ禍は、一方で日常信行を見直し方も教えています。御講奉修もその一つです。平成18年の松毬庵の整備以来、御講をお寺で勤める方が増えました。コロナの自粛要請が出て以降は、「家に大勢を招きにくい」「密にならない部屋がない」との理由で、大半の御講がお寺で奉修されています。事情が事情ですから、それは結構なのですが、中に「お寺で御講をすると楽だから」という声が聞こえてきて考えました。駐車場の手配は要りません。お掃除等の準備は皆でして、席主は参るだけという組もあって確かに楽です。しかし、功德は「労を尽くして」積むものですから、楽をした分を別に補わないとご利益の種を蒔き損ねます。そんなご信心の基本を忘れ、楽を喜ぶだけの悪い癖が付かぬようにせねばと感じたのです。

言うまでもなく御講は佛立信心の根幹で、私たちは御講でご信心を鍛えます。開導聖人が信者宅を道場とし、すべての功德行が集約する御講を「我が家の御会式」のつもりで厳格に勤めよと徹底されたので、御講を中心にご利益が盛んに顕れ、佛立信心は伸びたのです。ゆえに「我が家の御宝前を立派にご荘厳し、お教務さんやご信者に大勢参っていただいて、たくさんの口唱を御法さまにお供えいただこう」との思いを欠くと、御講を勤めてご利益を得る人は減少し、組の停滞を生みます。近年は御講を町会の当番のように「公平に負担を」と押し付け合う光景を時々見ますし、役中さんでも、我が家でのお助行を嫌う人があると聞きますが、これらも御講の簡略化が原因かも知れません。そもそも松毬庵の御宝前は、個人御本尊の信徒も御講が勤められるよう整えたものです。コロナが落ち着けば、元の基本に戻らねばなりません。我が家の御講が有難いのです。

(松風寺月報 令和2年7月号)